

県立高校入試改善検討委員会（第2回）

令和3年12月16日（木）

14:00～16:00

岩手県民会館第1会議室

次 第

- 1 開 会
 - 2 岩手県教育委員会あいさつ
 - 3 委員長あいさつ
 - 4 議 題
 - (1) 県立高校入試改善の方向性について
 - (2) 生徒の多様な学びに対応し、各高等学校の魅力や特色を活かした入試のあり方について
 - (3) 一般入試のあり方について
 - (4) その他
 - 5 その他
 - 6 閉 会
-

資 料

- 資料1：Ⅰ 県立高校入試改善の方向性
Ⅱ 県立高校入試改善の論点
- 資料2：Ⅰ 現行の推薦入試
Ⅱ 現行の一般入試
Ⅲ 全国の入試制度（令和3年度入試、全日制）
- 資料3：今後の予定

参考資料1：県立高校入試制度の沿革

参考資料2：令和4年度岩手県立高等学校入学者選抜推薦入学者選抜実施概要

参考資料3：岩手県における部活動の在り方に関する方針（改定版）（令和元年）

参考資料4：いわての中学校のスポーツ・文化活動のこれから

（令和3年3月 岩手県「中学校スポーツ・文化活動に係る研究」有識者会議）

参考資料5：新しい時代の高等学校教育の実現に向けた制度改正等について（抜粋）

（令和3年4月 文部科学省資料）

参考資料6：いわての高校魅力化グランドデザイン for2031（岩手県立高等学校に関するスク
ール・ミッション）（令和3年10月）

県立高校入試改善検討委員会設置要綱

(設置)

第1 社会や生徒の変化に対応するとともに各県立高校の教育活動の充実に向けたより良い入学者選抜制度について在り方を含め検討するため、県立高校入試改善検討委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(所掌事項)

第2 委員会は、次に掲げる事項について検討を行い、岩手県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)に提言を行う。

- (1) 入学者選抜における選考方法、日程
- (2) 各県立高等学校各学科の特色を生かした選抜方法
- (3) 入学者選抜における事務処理方法
- (4) その他県立高校入学者選抜に係る事項

(組織)

第3 委員会は、委員16名以内をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 産業界等関係者
- (3) 県立学校及び中学校関係者
- (4) P T A関係者
- (5) その他委員として適当と認められる者

(任期)

第4 委員の任期は、2年以内とする。

(委員長、副委員長)

第5 委員会には、委員長及び副委員長各1名を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により選出する。
- 3 副委員長は、委員長が指名する。
- 4 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 5 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代理する。

(会議の招集)

第6 委員会は、必要に応じて委員長が招集する。

(庶務)

第7 委員会の庶務は、岩手県教育委員会事務局学校教育室において処理する。

附 則

この要綱は、令和3年7月13日から令和4年12月31日まで施行する。

県立高校入試改善検討委員会 委員

No.	所属・役職	氏名	備考
1	富士大学入試部長	佐々木 修 一	委員長
2	岩手大学人文社会科学部教授	浅 沼 道 成	副委員長
3	岩手県産業教育振興会会長 株式会社IBC岩手放送代表取締役社長	鎌 田 英 樹	
4	県北ものづくり産業ネットワーク代表 株式会社東亜エレクトロニクス代表取締役社長	小山田 紳 也	
5	認定NPO法人カタリバ代表理事	今 村 久 美	
6	岩手県高等学校長協会会長 盛岡第一高等学校長	梅 津 久仁宏	
7	黒沢尻工業高等学校長	千 葉 治	
8	杜陵高等学校長	高 橋 正 浩	
9	岩手県中学校長会会長 盛岡市立下橋中学校長	松 葉 覚	
10	岩手県中学校体育連盟会長 盛岡市立下小路中学校長	橋 場 中 士	
11	岩手県PTA連合会会長	岩 舘 智 子	
12	岩手県高等学校PTA連合会会長	大 柏 良	代理出席
13	岩手県教職員組合中央執行副委員長	八重樫 千 晶	
14	岩手県高等学校教職員組合書記長	村 上 智加子	
15	岩手県市町村教育委員会協議会会長 盛岡市教育委員会教育長	千 葉 仁 一	代理出席
16	陸前高田市教育委員会教育長	山 田 市 雄	

事務局

No.	所属・役職	氏名
1	教育長	佐藤 博
2	教育局長	佐藤 一男
3	教育次長兼学校教育室長	高橋 一佳
4	学校教育室 学校教育企画監	中川 覚敬
5	学校教育室 首席指導主事兼義務教育課長	三浦 隆
6	学校教育室 首席指導主事兼高校教育課長	須川 和紀
7	学校教育室 高校教育担当 主任指導主事	高橋 直樹
8	学校教育室 高校教育担当 主任指導主事	菊地 健
9	学校教育室 高校教育担当 指導主事	中田 裕治
10	学校教育室 高校教育担当 指導主事	川原 恵理子

I 県立高校入試改善の方向性

1 県立高校入試の目的

- (1) 生徒一人ひとりが、その多様な能力・適性や意欲・関心に基づいて自分の進路希望を実現するため適切な高校が選択できること。
- (2) 各県立高校が特色づくりを進めてその特色にふさわしい生徒を選抜し生徒の成長を支援すること。

2 入試改善検討の視点

- (1) 現行の入試制度について経緯や統計的なデータに基づいて検証し、成果や課題を踏まえた検討を行う。
- (2) 生徒、中学校及び高校教員の入試に係る負担が軽減され、誰からも分かりやすい制度となるよう検討を行う。
- (3) 生徒や保護者が、各高校の特色や入試での特徴を十分に理解した上で適切に志望校を決定できるように、中学校からの意見も踏まえて検討を行う。
- (4) 入試制度の全体や関係者に与える影響についても考慮しながら検討を行う。

3 現行の入試制度の現状

(1) 推薦入試

- ・スポーツ、文化・芸術等において顕著な実績を持つ生徒、将来の職業選択や社会貢献に強い意欲を持っている生徒について、それぞれの能力・適性や意欲・関心に基づく高校の選択を行うことが可能となる。
- ・各高校における部活動や生徒会活動等の活性化に寄与し、各高校の特色ある学校づくりを進めることが可能となる。
- ・合格者に対して学力調査を行うことにより、中学校において推薦入試合格後に学力調査を目標の一つとして学習指導が行われることで、基礎学力の定着や学習意欲の向上を図ることが可能となる。

(2) 一般入試

- ・選抜方法について、各高校でABC選考の割合の決定、適性検査の実施、傾斜配点などにより、各学科（学系・コース）の特性に応じた選抜を行うことが可能となる。
- ・志願者に対して、面接を実施することにより、それぞれの受検者の意欲や関心・態度を評価することが可能となる。

4 現行の入試制度の課題

【県内中学校及び県立高校を対象に令和3年6月したアンケート調査から】

(1) 推薦入試

- ・各高校が示す推薦基準について、生徒及び中学校にとって分かりづらく、中学校ごとに志願者を推薦する基準が異なる場合があるとの指摘がある。
- ・部活動、生徒会活動、ボランティア活動等の実績を評価しているが、義務教育段階における多様な学びにより受検生が身に付けた能力を適切に評価すべきとの指摘がある。
- ・推薦入試制度そのものの廃止や大幅な変更も含めての検討すべきとの指摘がある。

(2) 一般入試

- ・各高校の選抜方法について、複雑で分かりづらいとの指摘がある。
- ・各高校の特色を、より選抜方法に生かせるように見直すべきとの指摘がある。
- ・全受検者に対して実施している面接は、事前提出書類の活用を含め、1人当たりの面接時間の確保の面から十分とは言えないとの指摘がある。

(3) 二次募集

- ・合格者発表が3月末となっているため、合格者の入学準備期間が短く、年度末の入試に係る日程を見直すべきとの指摘がある。

(4) 入試日程

- ・志願者だけでなく、中学校及び高校の授業や行事にも影響があることから、入試期間の短縮や検査日の固定等が必要との指摘がある。
- ・中学校及び高校において、3月に、高校入試の対応がなく、落ち着いて授業が実施できる日を増やすべきとの指摘がある。

(5) 手続関係

- ・生徒、中学校が事前提出する書類について、廃止も含めた見直しをすべきとの指摘があるものがある。

Ⅱ 県立高校入試改善の論点

- 1 現行の推薦入試について見直し、生徒の多様な学びに対応し、各高等学校の魅力や特色を活かした入試としてのあり方を検討する（出願の基準、応募資格、検査内容、名称等）。
 - ・志願者が0名の学校・学科は、志願者にとって各高校の魅力や特色を理解し、自らに適切な高校を選択する入試とはなっていないのではないか。
 - ・志願倍率が1倍を下回る高校・学科では、各高校が自校の特色にふさわしい生徒を選抜することが難しくなっているのではないか。
 - ・各高校が示す推薦条件について、対象となる部活動名や実績を明示する場合も多く、中学校及び高校で進められている部活動参加の任意化や生徒の主体的な参加の流れに沿ったものとなっていないのではないか。
 - ・今後、各高校が「入学者の受入れに関する方針」等（スクール・ポリシー）を策定し、公表することから、「入学者の受入れに関する方針」に基づいた検査や選抜を実施すべきだが、現行の推薦入試の調査書（評定）、実績、面接、小論文又は作文による選抜では、対応しきれないのではないか。

- 2 一般入試について、各高等学校の魅力や特色を活かしたあり方を、制度の分かりやすさも踏まえて検討する。
 - ・約8割の学校・学科で志願倍率が1倍を下回っており、一定の基準を満たす志願者は入学できる状態であるため、各高校・学科で多様な選抜を行う必要性は限定的である。また、検査や選抜の方法について、各高校・学科の特色が反映されたものとなっていないのではないか。
 - ・面接について、全受検者に実施しているが、1人当たりの面接時間が十分に確保できず、有効な選抜資料として活用できていないのではないか。

- 3 入試日程について、中学校及び高等学校の負担軽減も図りながら、より短期間となるように検討する。
 - ・
 - ・
 - ・

- 4 選抜資料について、他の論点の検討を通じて、必要性や有用性を考慮しながら検討する。
 - ・
 - ・
 - ・

I 現行の推薦入試 (P. 1~4)

II 現行の一般入試 (P. 5~10)

III 全国の入試制度 (令和 3 年度入試、全日制) (P. 11~22)

I 現行の推薦入試

1 主な経緯

年度（西暦）	内 容
昭和53（1978）	・農業、工業、商業、水産、家庭学科で開始（定員の10%）。
昭和57（1982）	・定員の20%に割合拡大。
昭和59（1984）	・体育科で開始（体育科は定員の30%）。
昭和61（1986）	・理数科、英語科で開始（理数、体育、英語科は定員の30%）。
昭和62（1987）	・普通科の職業に準ずるコースで開始。 ・全学科について、割合を定員の20又は30%に変更。
昭和63（1988）	・普通科の芸術、外国語、体育学系で開始。
平成元（1989）	・普通科のうち希望校で開始（定員の5%程度）。
平成4（1992）	・普通科の全校で開始。 【募集定員】 普通科…定員の5%程度 普通科の芸術・外国語・体育情報系学系・コースは、定員の20又は30% 専門学科…定員の20又は30%
平成6（1994）	・割合の拡大。 【募集定員】 普通科…定員の10%以内 普通科の芸術・体育学系・コース、体育科は、定員の50%以内 専門学科…定員の20又は30% 総合学科…定員の20%以内
平成8（1996）	・普通科で定員の10%、体育科で定員の50%に割合の固定化。 ・総合学科で、定員の30%に割合拡大。
平成11（1999）	・総合学科で、定員の20又は30%に割合の弾力化。
平成16（2004）	・ 推薦入試を廃止し、新しい入学者選抜（ABC選考）を導入。 ※ 旧制度では、高校側が望んでいる生徒像や推薦基準が明示されず、中学校が志願者を推薦するに当たって困難な面も見られた。 ※ 推薦入試に代わるものとして、調査書点重視のB選考（学力検査：調査書等が1：9～3：7で定員の1～2割を選抜）の導入。
平成19（2007）	・ 現行の推薦入試の開始。 【応募資格】 ・ 県内中学校等を卒業見込みの者又は前年度卒業者 ・ スポーツ、文化・芸術等において顕著な成績を収める者 ・ 各高校の推薦基準を満たす者 【募集定員】 定員の10%以内。ただし、普通科の体育・芸術系、体育科は20%以内。
平成20（2008）	・ 志願先に2つ以上の学科がある場合、第2・第3志望も可能に変更。

平成21（2009）	・ 体育・芸術系・コース、体育科で、定員の50%以内に割合拡大。				
平成28（2016）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応募資格Bとして、「将来の職業選択や社会貢献に強い意欲を持っている者」を追加（従来の応募資格は、応募資格A）。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>応募資格A</td> <td>: スポーツ、文化・芸術等において顕著な実績を持つ者</td> </tr> <tr> <td>応募資格B</td> <td>: 将来の職業選択や社会貢献に強い意欲を持っている者</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 推薦入試合格者を対象とした学力調査を一般入試検査日に実施開始。 	応募資格A	: スポーツ、文化・芸術等において顕著な実績を持つ者	応募資格B	: 将来の職業選択や社会貢献に強い意欲を持っている者
応募資格A	: スポーツ、文化・芸術等において顕著な実績を持つ者				
応募資格B	: 将来の職業選択や社会貢献に強い意欲を持っている者				
令和2（2020）	・ 専門学科・総合学科で応募資格A及びBの両方で募集する場合、農業学科は定員の20%以内、農業学科以外は15%以内に割合拡大。				

2 推薦入試に係る状況

(1) 志願倍率の低下、志願者が0名の学校・学科の増加

- ・ 志願倍率は、平成25年度以降は減少傾向で、平成26年度以降は1倍を下回っている状態。
- ・ 志願者が0名の学校及び学科の割合は、増加傾向で、いずれも全体の約2割。
- ・ 各高校が示す推薦基準は、要件が多様化及び拡大化の傾向、また、部活動等実績の水準は低下の傾向。

(2) 従来の部活動の在り方の見直し

ア 「岩手県における部活動の在り方に関する方針」（平成30年策定、令和元年改定）

- ・ 平成30年に「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（スポーツ庁）、「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（文化庁）に基づくもの。
- ・ 活動時間及び休養日の設定基準を示し、各学校が「学校の部活動に係る活動方針」を策定することとした。
- ・ 令和元年の改定で、部活動は自主的・自発的な参加により行われるものであり、参加を義務付けたり、活動を強制したりしないこと、体罰・暴言等の根絶を図ることを明記。
- ・ 県内中学校及び高校で、部活動参加の任意化が進められている。

イ 「いわての中学生のスポーツ・文化活動のこれから」（岩手県「中学生スポーツ・文化活動に係る研究」有識者会議）

- ・ 令和3年3月に岩手県「中学生スポーツ・文化活動に係る研究」有識者会議が県教育委員会に対して行った提言。
- ・ 県教育委員会の役割・取組は、「岩手県における部活動の在り方に関する方針」（上記ア）の内容検討及び再改定、公立高校の推薦入試の在り方について検討など。
- ・ 学校に求められる役割・取組は、自主的・自発的な部活動を推進。具体的には、活動方針や部活動の意義について、また、「所属しない」という選択肢があることについて生徒・教員・保護者での共通理解など。

(3) 県教育委員会でのスクール・ミッション策定、各高校でのスクール・ポリシー策定

- ・ 令和3年3月に学校教育法施行規則が一部改正され、学校設置者が各高校の存在意義・社会的役割等を明確化し再定義することとなった（スクール・ミッション）。
- ・ 令和3年10月に県教育委員会は「いわての高校魅力化グランドデザイン for 2031（岩手県立高等学校に関するスクール・ミッション）」を策定。

- ・各高校は、地域や関係機関と連携しながら、令和4年度中に入口から出口までの教育活動の指針を定め、公表（スクール・ポリシー）。
- ・スクール・ポリシーは、「育成を目指す資質・能力に関する方針」、「教育課程の編成及び実施に関する方針」、「入学者の受入れに関する方針」の3つの方針。

【推薦入試に関するデータ】

1 志願者数、志願倍率等

年度（西暦）	志願者数	志願倍率	志願者0名の学校数及び学科数		推薦入試を計画した学校数及び学科数
			学校数（割合）	学科数（割合）	
平成19（2007）	1,131	1.04	11（15.7%）	19（14.3%）	70校133学科
平成20（2008）	1,118	1.04	7（10.6%）	16（12.6%）	66校127学科
平成21（2009）	1,092	0.95	9（14.1%）	19（15.3%）	64校124学科
平成22（2010）	1,138	0.99	8（12.5%）	13（10.4%）	64校125学科
平成23（2011）	1,151	1.03	9（14.1%）	19（15.2%）	64校125学科
平成24（2012）	1,067	0.96	7（10.9%）	20（16.0%）	64校125学科
平成25（2013）	1,141	1.03	7（10.9%）	12（9.6%）	64校125学科
平成26（2014）	1,098	1.00	5（7.9%）	19（15.3%）	63校124学科
平成27（2015）	947	0.86	11（17.5%）	30（24.2%）	63校124学科
平成28（2016）	1,036	0.95	8（12.7%）	27（21.8%）	63校124学科
平成29（2017）	1,004	0.92	8（12.7%）	23（18.5%）	63校124学科
平成30（2018）	958	0.91	12（19.0%）	29（23.8%）	63校122学科
令和元（2019）	978	0.96	13（20.6%）	25（20.8%）	63校120学科
令和2（2020）	914	0.86	13（21.0%）	27（23.1%）	62校117学科
令和3（2021）	886	0.82	11（17.8%）	26（22.2%）	62校117学科

※ 「志願者0名」の学校数、学科数の割合は、それぞれ推薦入試を計画した学校数、学科数に対する割合。

2 平成22（2010）年度入試から令和2（2020）年度入試の各高校が示す推薦基準の推移

※ 応募資格A「スポーツ、文化・芸術活動、特別活動（生徒会活動等）、その他校内外の活動（ボランティア活動、地域貢献活動等）において顕著な実績を持つ者」等の推移

項目		学校数 (%)
募集定員に対する割合 (5%、10%等)	拡大	10 (16.1%)
	変化なし	51 (82.3%)
	縮小	1 (1.6%)
部活動等実績の水準 (県大会ベスト8以上、地区大会3位以上等)	緩和	18 (29.0%)
	変化なし	35 (56.5%)
	厳格化	9 (14.5%)
要件 (対象とする部活動の拡大・縮小、生徒会活動やボランティア活動の追加・削除、応募資格Bの追加等)	拡大	43 (69.4%)
	変化なし	15 (24.2%)
	縮小	4 (6.5%)

3 応募資格B「将来の職業選択や社会貢献に強い意欲を持っている者」の実施校数・志願者数の推移

年度（西暦）	志願者数	実施校数	実施学科数
平成28（2016）	26	13	26
平成29（2017）	34	13	28
平成30（2018）	21	13	27
令和元（2019）	29	12	26
令和2（2020）	48	14	32
令和3（2021）	68	16	37
令和4（2022）		18	45

※ 平成28年度入試から導入。

※ 令和2年度入試から、専門学科・総合学科で応募資格A及びBの両方で募集する場合、農業学科は定員の20%以内、農業学科以外は15%以内に割合拡大。

※ 合格者数は公表していない。

Ⅱ 現行の一般入試

1 主な経緯

年度（西暦）	内 容																	
昭和39（1964）	・面接について、一部の学校で開始（県教委の事前承認が必要）。																	
昭和42（1967）	・学力検査は国語、社会、数学、理科、英語の5教科各100点（2日間）。																	
昭和47（1972）	・英語でヒアリングテスト（現リスニングテスト）導入。																	
昭和50（1975）	・学力検査を5教科各60点、検査日を1日に変更。																	
昭和59（1984）	・適性検査について、体育科で開始。																	
昭和60（1985）	・面接について、全高校での実施開始（選抜資料としない）。																	
昭和62（1987）	・面接を選抜の総合判定の資料に追加。 （得点化はしない。総合判定の資料として扱う。）																	
平成2（1990）	・調査書に中学1年の成績を記載（得点化はしない）。																	
平成10（1998）	・理数科、国際関連学科で学力検査点の傾斜配点を導入。																	
平成16（2004） （推薦入試の廃止）	<p>・学力検査を5教科各100点、検査日を2日間に変更（検査日の1週間程度前倒し）。</p> <p>1日目：学力検査（5教科）、自己アピールカードの記入 2日目：面接、英語応答試験</p> <p>・英語による応答試験の導入。</p> <p>・面接を得点化（自己アピールカードの導入）。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>学力検査</td> <td>500</td> <td rowspan="5" style="text-align: center; vertical-align: middle;">1000</td> </tr> <tr> <td>調査書（9教科の中学2、3年生の評定）</td> <td>330</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">500</td> </tr> <tr> <td>小論文・作文 ※一部</td> </tr> <tr> <td>適性検査（実技等） ※一部</td> </tr> </table> <p>・異なる評価尺度での選抜を行うために、ABC選考を導入。</p> <p>A選考は、学力検査：調査書、面接等 = 5：5 ※ A選考では普通科以外で数学、英語、理科の傾斜配点可。</p> <p>B選考は、学力検査：調査書、面接等 = 3：7、2：8又は1：9 C選考は、学力検査：調査書、面接等 = 7：3、8：2又は9：1 ※ B、C選考の配点比は各校で決定。</p> <p>・選抜は、次の①～④から各学校が選択した方法により実施。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>①</td> <td>A選考50% → B選考40% → C選考10%</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>A選考60% → B選考30% → C選考10%</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>A選考70% → B選考20% → C選考10%</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>A選考80% → B選考10% → C選考10%</td> </tr> </table>	学力検査	500	1000	調査書（9教科の中学2、3年生の評定）	330	面接	500	小論文・作文 ※一部	適性検査（実技等） ※一部	①	A選考50% → B選考40% → C選考10%	②	A選考60% → B選考30% → C選考10%	③	A選考70% → B選考20% → C選考10%	④	A選考80% → B選考10% → C選考10%
学力検査	500	1000																
調査書（9教科の中学2、3年生の評定）	330																	
面接	500																	
小論文・作文 ※一部																		
適性検査（実技等） ※一部																		
①	A選考50% → B選考40% → C選考10%																	
②	A選考60% → B選考30% → C選考10%																	
③	A選考70% → B選考20% → C選考10%																	
④	A選考80% → B選考10% → C選考10%																	
平成19（2007） （推薦入試の導入）	<p>・検査日を1日に変更。</p> <p>・英語による応答試験の廃止。</p> <p>・自己アピールカードの事前提出開始。</p> <p>・配点を見直し、面接、小論文・作文、適性検査を170点から70点に変更。</p>																	

	学力検査	500		900
	調査書（9教科の中学2、3年生の評定）	330	400	
	面接	70		
	小論文・作文 ※一部			
	適性検査（実技等） ※一部			
<ul style="list-style-type: none"> ・ABC選考の見直し。 A選考は、学力検査：調査書、面接等 = 5：4 ※ A選考では普通科以外で数学、英語、理科の傾斜配点可。 B選考は、学力検査：調査書、面接等 = 3：7、2：8又は1：9 C選考は、学力検査：調査書、面接等 = 7：3、8：2又は9：1 ※ B、C選考の配点比は各校で決定。 ・選抜は、次の①～⑦から各学校が選択した方法により実施。 				
①		A選考50% → B選考40% → C選考10%		
②		A選考50% → B選考30% → C選考20%		
③		A選考60% → B選考30% → C選考10%		
④		A選考60% → B選考20% → C選考20%		
⑤		A選考70% → B選考20% → C選考10%		
⑥		A選考70% → B選考10% → C選考20%		
⑦		A選考80% → B選考10% → C選考10%		
平成28（2016）	<ul style="list-style-type: none"> ・調査書の中学1年の成績を得点化。 ・配点の見直し。 			
学力検査		500		1000
調査書（9教科の中学1～3年生の評定）		440	500	
面接		60		
小論文・作文 ※一部				
適性検査（実技等） ※一部				
<ul style="list-style-type: none"> ・ABC選考の見直し。 A選考は、学力検査：調査書、面接等 = 5：5 ※ A選考では普通科以外で数学、英語、理科の傾斜配点可。 B選考は、学力検査：調査書、面接等 = 3：7 C選考は、学力検査：調査書、面接等 = 7：3 ・選抜は、次の①～⑦から各学校が選択した方法により実施。 				
①		A選考100%		
②		A選考70% → B選考30%		
③		A選考70% → B選考20% → C選考10%		
④		A選考70% → B選考10% → C選考20%		
⑤		A選考70% → C選考30%		
⑥		A選考70% → C選考20% → B選考10%		
⑦		A選考70% → C選考10% → B選考20%		
<ul style="list-style-type: none"> ・定時制成人枠を導入。 				

2 一般入試に係る状況

(1) 志願倍率の低下

- ・ 全県の志願倍率は低下傾向にあり、平成 27 年度入試以降 1 倍を下回っている状態。
- ・ 各高校及び学科の志願倍率について、1 倍を下回っている高校及び学科が約 8 割の状態。
- ・ 各学科の検査について、数学・英語・理科の傾斜配点、小論文又は作文といった多様な方法で実施する学科がごく一部となっている状態。
- ・ 各学科の選抜方法は、A 選考のみとする学科の割合が約 6 割となっており、異なる評価尺度で選抜を行う学科は減少傾向。

(2) 全受検者に実施している面接

- ・ 1 人当たりの面接時間は、全高校の平均で約 4 分で、小規模校よりも中・大規模校が短く、約 3 分半の状態。
- ・ 志願者が作成する資料（自己アピールカード）の作成指導が中学校にとって大きな負担となっている状態。
- ・ 受検者は周到な準備で望むため、各受検者の評価には差が出にくい状態。

(3) 県教育委員会でのスクール・ミッション策定、各高校でのスクール・ポリシー策定

- ・ 令和 3 年 3 月に学校教育法施行規則が一部改正され、学校設置者が各高校の存在意義・社会的役割等を明確化し再定義することとなった（**スクール・ミッション**）。
- ・ 令和 3 年 10 月に県教育委員会は「いわての高校魅力化グランドデザイン for 2031（岩手県立高等学校に関するスクール・ミッション）」を策定。
- ・ 各高校は、地域や関係機関と連携しながら、令和 4 年度中に入口から出口までの教育活動の指針を定め、公表（**スクール・ポリシー**）。
- ・ スクール・ポリシーは、「育成を目指す資質・能力に関する方針」、「教育課程の編成及び実施に関する方針」、「入学者の受入れに関する方針」の 3 つの方針。

【一般入試に関するデータ】

1 志願者数、志願倍率等（全日制）

年度（西暦）	志願者数	志願倍率 （調整後）	志願倍率 1 倍未満		学校数及び学 科数
			学校数（割合）	学科数（割合）	
平成16（2004）	12,969	1.04	36校（46.8%）	66学科（43.1%）	77校153学科
平成17（2005）	12,385	1.04	40校（51.9%）	69学科（46.0%）	77校150学科
平成18（2006）	12,167	1.04	37校（49.3%）	61学科（41.5%）	75校147学科
平成19（2007）	11,297	1.06	36校（48.6%）	53学科（38.1%）	74校139学科
平成20（2008）	10,520	1.05	31校（46.3%）	55学科（42.6%）	67校129学科
平成21（2009）	10,268	1.04	30校（46.2%）	45学科（35.7%）	65校126学科
平成22（2010）	10,252	1.05	27校（42.2%）	56学科（44.8%）	64校125学科
平成23（2011）	9,601	1.01	37校（57.8%）	61学科（48.8%）	64校125学科
平成24（2012）	9,373	0.99	36校（56.3%）	64学科（51.2%）	64校125学科
平成25（2013）	9,162	0.98	39校（60.9%）	68学科（54.4%）	64校125学科
平成26（2014）	9,187	1.00	35校（55.6%）	66学科（53.2%）	63校124学科
平成27（2015）	8,627	0.93	42校（66.7%）	79学科（63.7%）	63校124学科
平成28（2016）	8,753	0.94	43校（68.3%）	78学科（62.9%）	63校124学科
平成29（2017）	8,506	0.92	43校（68.3%）	75学科（60.5%）	63校124学科
平成30（2018）	7,977	0.90	44校（69.8%）	78学科（63.9%）	63校122学科
令和元（2019）	7,642	0.89	46校（73.0%）	81学科（67.5%）	63校120学科
令和2（2020）	7,088	0.87	47校（75.8%）	87学科（74.4%）	62校117学科
令和3（2021）	6,590	0.82	49校（79.0%）	95学科（81.2%）	62校117学科

2 平成16（2004）年度入試から令和4（2022）年度入試の検査内容の推移（全日制）

検査内容	H16	H19	R4
数学・英語・理科の傾斜配点	6学科（3.9%）	9学科（6.5%）	2学科（1.7%）
小論文又は作文	60学科（39.2%）	3学科（2.6%）	0学科（0.0%）
適性検査	8学科（5.2%）	6学科（4.3%）	5学科（4.3%）

※ 平成16年度入試から導入。

※ 検査日は、平成16～18年度入試は2日間、平成19年度入試からは1日間。

3 平成28（2016）年度入試から令和4（2022）年度入試の選抜方法の推移（全日制）

選抜方法		H28	R4
①	A選考100%	34学科（27.4%）	72学科（61.5%）
②	A選考70% → B選考30%	15学科（12.1%）	13学科（11.1%）
③	A選考70% → B選考20% → C選考10%	48学科（38.7%）	20学科（17.1%）
④	A選考70% → B選考10% → C選考20%	11学科（8.9%）	3学科（2.6%）
⑤	A選考70% → C選考30%	6学科（4.8%）	5学科（4.3%）
⑥	A選考70% → C選考20% → B選考10%	10学科（8.1%）	4学科（3.4%）
⑦	A選考70% → C選考10% → B選考20%	0学科（0.0%）	0学科（0.0%）

※ 平成28年度入試から現行の方法。

※ 配点及びABC選考

学力検査	500		1000
調査書（9教科の中学1～3年生の評定）	440	500	
面接等	60		
小論文・作文 ※一部			
適性検査（実技等） ※一部			

A選考は、学力検査：調査書、面接等 = 5：5

B選考は、学力検査：調査書、面接等 = 3：7

C選考は、学力検査：調査書、面接等 = 7：3

4 令和2（2020）年度入試における面接方法等（全日制）

学級数	面接方法 (集団又は個人)	1人当たりの 面接時間(平均)	開始時刻 (平均)	終了時刻 (平均)
小規模校 (1～3学級、30校)	個人23校、集団7校	約4分55秒	15：02	16：25
中・大規模校 (4～7学級、32校)	個人4校、集団28校	約3分26秒	15：04	16：47
合計 (62校)	個人27校、集団34校	約4分09秒	15：03	16：36

※ 令和2年度入試における理科の検査終了時刻 14：40

※ 令和3、4年度入試では、新型コロナウイルス感染症対策のため面接を実施していない。

5 令和3年6月に県内公立中学校長及び県立高等学校長を対象に実施したアンケート調査結果のうち、一般入試の面接に関する部分（第1回委員会資料から再掲）

※ アンケートで最も「変更すべき」の割合が大きかった項目

回答数（割合）

	中学校	高等学校
現在のままでよい	94 (69.6%)	43 (66.2%)
変更すべき	41 (30.4%)	22 (33.8%)

「変更すべき」の主な内容

中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・自己アピールカードの作成指導が中学校の負担となっており、負担に見合った面接が行われていないと感じるため、面接の廃止、自己アピールカードの廃止、又は自己アピールカードを当日記入するなど見直すべき。(26) ・面接で十分なため、自己アピールカードを廃止すべき。(9) ・受検者の志望動機を確認することは必要と考えられるため、リモートでも面接を実施すべき。(2)
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・1人当たりの面接時間は3分程度であり、受検生は周到に準備して臨むため、評価に差が出ない現状である。また、面接室ごとの公平性確保が難しいこともあり、感染症対策の観点からも、廃止、実施を学校判断、実施しても得点化しない、自己アピールカードの廃止など行うべき。(21) ・調査書、自己アピールカードで受検生を把握できるため、廃止すべき。

Ⅲ 全国の入試制度（令和3年度入試、全日制）

1 全国の入試制度の傾向

(1) 入試日程等

ア 検査の実施回数（二次募集を除く）

1回	2回	3回
12	33	2

イ 検査日の総日数

1日	2日	3日	4日	5日
1	12	26	7	1

(2) 推薦入試・特色入試

（一般入試とは別に募集・検査・合格発表を行う入試、又は、一般入試とあわせて募集・検査を行うが一般入試とは異なる選抜方法で行う入試）

ア 実施状況

一般入試とは別に実施			一般入試と 同時に実施
中学校長の推薦を要 する入試のみ	中学校長の推薦を要 しない入試のみ	両方	
15	16	4	12

イ 実施時期

一般入試とは別に実施				一般入試と 同時に実施
1月		2月		
中旬	下旬	上旬	中旬	12
2	6	24	4	

ウ 一般入試とは別に実施する場合の検査日数

1日	2日	3日以上
22	12	1

エ 中学校長の推薦を要しない入試の検査・選抜内容（28府県で実施）

面接	調査書	実技	学力検査	作文・ 小論文	プレゼン・ 自己PR	口頭試問
25	22	20	20	19	11	3

(3) 一般入試

ア 検査日の日数

1日	2日	3日以上
13	32	2

イ 面接の実施

全員に実施	学科により実施	実施しない
18	27	2

ウ 学力検査：調査書（評定）の取扱い

全て統一	定員の一部で学校ごと	定員の全部で学校ごと
20	10	17

2 各都道府県の入試日程（検査の実施時期、検査日数）

番号	都道府県	1月		2月			3月	
		中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
1	北海道			推薦 1			一般 2	
2	青森						一・特 1	
3	岩手		推薦 1				一般 1	
4	宮城						特・共 2	
5	秋田		前期 1				一般 1	
6	山形			推薦 1			一般 2	
7	福島						特・一 3	
8	茨城						特・共 2	
9	栃木			特色 2			一般 1	
10	群馬			前期 1		後期 2		
11	埼玉					一般 2		
12	千葉					一般 2		
13	東京		推薦 2			一・前 1	後期 1	
14	神奈川			共通 4				
15	新潟			特色化 1			一般 2	
16	富山			推薦 1			一般 2	
17	石川			推薦 1			一般 2	
18	福井	推・特 1					一般 2	
19	山梨		前期 2				後期 1	
20	長野			前期 1			後期 1	
21	岐阜						第一次 2	
22	静岡						一般 2	
23	愛知						推・一 2	
24	三重			前・ス 2			後期 1	
25	滋賀			推・ス・特 2			一般 2	
26	京都				前期 2		中期 1	
27	大阪				特別 2		一般 1	
28	兵庫				推・特 2		一般 2	
29	奈良				特色 2		一般 1	
30	和歌山							一・ス 2
31	鳥取			推薦 1			一般 2	
32	島根	推・ス 1					一般 2	
33	岡山			特別 2			一般 2	

34	広島			推薦 1			一般 2	
35	山口			推薦 1			第一次 1	
36	徳島			特色 1			一般 2	
37	香川			自己推薦 1			一般 2	
38	愛媛			推薦 1			一般 2	
39	高知						A日程 2	
40	福岡		特色化 2	推薦 2			一般 1	
41	佐賀			特別 1			一般 2	
42	長崎			前期 2			後期 2	
43	熊本			特色 1			一般 2	
44	大分			推薦 2			第一次 2	
45	宮崎			推・ス 1			一般 2	
46	鹿児島			推薦 1			一般 2	
47	沖縄		推薦 1				一般 2	

3 各都道府県の状況

番号	都道府県	選抜制度	
1	北海道	推薦	一般
		【出願要件】 ・中学校長の推薦 【検査・選抜】 ・個人調査書、推薦書、面接 ・学校によって、英語の聞取テスト・問答、実技、作文、自己アピール文提出	【面接】 全員に実施。 【学校の特色】 ・実技、作文の実施可。 ・学力検査で傾斜配点可。
2	青森県	特色化	一般
		【検査・選抜】 ・学力検査、調査書、面接 ・学校によって、調査書の評定以外（特別活動、部活動実績等）、実技検査	【面接】 全員に実施。 【学校の特色】 ・一般、特色化の選抜順、割合を、各学科で設定。
3	岩手県	推薦	一般
		【出願要件】 ・中学校長の推薦 ・スポーツ、文化、芸術等で顕著な成績を収めた者、又は、将来の職業選択や社会貢献に強い意欲を持っている者（各高校が示す推薦基準を満たす者） 【検査・選抜】 ・調査書、志願理由書、面接 ・学校によって、小論文又は作文、適性検査	【面接】 全員に実施。 【学校の特色】 ・小論文又は作文、適性検査の実施可。 ・学力検査で傾斜配点可。 ・学力検査：調査書等（評定、面接等）を、A選考（5：5）、B選考（3：7）、C選考（7：3）とし、定員の3割はA～C選考の比率を各学科で設定。

4	宮城県	第一次（特色）	第一次（共通）
		【検査・選抜】 ・調査書、学力検査 ・学校によって面接 ・学力検査の各教科は0.25～2.0倍、調査書の各教科の評定は0.25～4.0倍から各学科で設定。	【面接】 学科によって実施。 【学校の特色】 ・面接、実技、作文の実施可。 ・学力検査：調査書（評定）を、7：3～3：7から各学科で設定。
5	秋田県	前期	一般
		【出願要件】 ・各高校が示す「出願の条件」を満たしている者 【検査・選抜】 ・調査書、志願理由書、面接 ・学校によって、学力検査（国・数・英）又は口頭試問、作文、実技	【面接】 全員に実施。 【学校の特色】 ・学力検査、調査書（評定）のそれぞれの合格範囲を示す相関図は各学科で設定。
6	山形県	推薦（自己推薦）	一般
		※ 普通科では実施しない。 【出願要件】 ・各高校の出願要件を満たした者 【検査・選抜】 ・調査書、面接 ・学校によって、適性検査、作文、実技検査、基礎学力検査、自己申告書	【面接】 全員に実施。 【学校の特色】 ・学力検査：調査書（評定）を、7：3～3：7から各学科で設定。
7	福島県	特色	一般
		【検査・選抜】 ・志願理由書、調査書、学力検査、面接 ・学校によって、小論文又は作文、実技等	【面接】 学科により実施。 【学校の特色】 ・学力検査で傾斜配点可。 ・調査書（評定）で傾斜換算可。
8	茨城県	特色	共通
		【出願要件】 ・文化、芸術、体育等の分野において優れた資質・実績を有する者 ・各高校が定める出願要件を満たす者 【検査・選抜】 ・調査書、学力検査、面接	【面接】 全日制では実施しない。 【学校の特色】 ・学力検査重視：調査書重視の比率を、2：8～8：2から各学科で設定。
9	栃木県	特色	一般
		【検査・選抜】 ・調査書、志願理由書、面接 ・学校によって、作文、小論文、学校独自検査（国・数・英、又は、総合問題）	【面接】 学科によって実施。 【学校の特色】 ・学力検査：調査書を、9：1～5：5から各学科で設定。

10	群馬県	前期		後期
		【検査・選抜】 ・調査書、3教科の学力検査又は総合問題 ・高校独自の検査（面接、英語面接、実技検査、作文、小論文、パーソナル・プレゼンテーション）		【面接】 学科によって実施。 【学校の特徴】 ・学力検査：調査書（評定）：面接等を、各学科で設定。
11	埼玉県	一般		
		【面接】 学科によって実施。 【学校の特徴】 ・学力検査：調査書（評定）を、第1次選抜では6：4～4：6、第2次選抜では7：3～3：7から各学科で設定。 ・調査書の評定以外を各高校の基準で得点化し加算。		
12	千葉県	一般		
		【面接】 学科によって実施。 【学校の特徴】 ・調査書の各教科の評定を0.5～2.0倍にできる。 ・調査書の評定以外の記載内容で50点まで加点可。 ・学校設定検査（面接、集団討論、自己表現、作文、小論文、適性検査、学校独自問題による検査等）の実施可。 ・募集人数の2割まで、調査書（評定）、調査書（評定以外）、面接の配点を変えて選抜可。		
13	東京都	一般推薦	文化・スポーツ等特別推薦	第一次、分割前期
		【出願要件】 ・中学校長の推薦 【検査・選抜】 ・調査書、面接 ・学校によって、小論文又は作文、実技検査	【出願要件】 ・中学校長の推薦 ・1種目を指定し、応募基準を満たした者 【検査・選抜】 ・調査書、面接、実技検査 ・学校によって小論文又は作文	【面接】 学科によって実施。 【学校の特徴】 ・面接、適性検査を加算可。 ・分割後期では、定員の一部をあらかじめ二次募集にする。
14	神奈川県	共通		
		【面接】 全員に実施。 【学校の特徴】 ・各高校の選考基準で選考。 ・特色検査（実技検査又は自己表現）の実施可、特色検査を実施する場合は学力検査を3教科まで減じること可。		

15	新潟県	特色化		一般
		【出願要件】 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校長の推薦 ・スポーツ活動、文化活動、科学分野等で秀でた実績がある者（実績について各高校で定める要件を満たす者） 【検査・選抜】 <ul style="list-style-type: none"> ・特色化選抜推薦書、調査書、面接 ・学校によって面接以外の検査（実技、PRシート、作品提出等） 		【面接】 学校独自検査として実施可。 【学校の特色】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校独自検査として、面接、PRシート、実技検査、課題作文、筆頭検査、その他も可。 ・学力検査：調査書（評定）を、7：3～3：7から各学科で設定。 ・学校独自検査点を加算。
16	富山県	推薦		一般
		【出願要件】 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校長の推薦 ・次のa～dのいずれかの者 <ul style="list-style-type: none"> a 調査書の「学習の記録」が優良 b 専門に関する優れた能力又は実績 c 芸術・文化・体育のいずれかで優れた能力又は実績 d 生徒会活動等で積極的に取り組んだ実績 【検査・選抜】 <ul style="list-style-type: none"> ・調査書、推薦書、面接 ・学校によって、作文、実技検査 		【面接】 学科によって実施。 【学校の特色】 <ul style="list-style-type: none"> ・調査書点（評定）又は学力検査点が募集定員の上位1割について、調査書点又は学力検査点のみで合否判定可。
17	石川県	推薦		一般
		【出願要件】 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校長の推薦 ・普通科は、各高校の推薦要件を満たす者 ・普通科以外は、調査書に優れた点や長所の記録を有する者 【検査・選抜】 <ul style="list-style-type: none"> ・推薦書、志願理由書、調査書、面接 ・学校によって、作文、適性検査 		【面接】 学科によって実施。 【学校の特色】 <ul style="list-style-type: none"> ・面接、適性検査の実施可。
18	福井県	推薦	特色	一般
		【出願要件】 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校長の推薦 ・調査書の各記録が優良 【検査・選抜】 <ul style="list-style-type: none"> ・調査書、面接 ・学校によって、作文、実技試験 	※ 推薦と併願不可。 【出願要件】 <ul style="list-style-type: none"> ・各高校の資格要件（部活動等の競技実績）を満たす者 【検査・選抜】 <ul style="list-style-type: none"> ・学力検査（国、数、英）、志願理由書、面接 ・学校によって、実技試験 	【面接】 学科によって実施。 【学校の特色】 <ul style="list-style-type: none"> ・数学、英語の学力検査の一部はA（基礎力）・B（記述・論述型）の選択問題。

19	山梨県	前期	後期
		【出願要件】 ・各高校が定める「出願条件」に適合すると自ら考える者 【検査・選抜】 ・調査書、学習活動及び生活状況に関する中学校長の所見、面接 ・学校によって、特色適性検査、特技、個性表現	【面接】 実施しない。 【学校の特徴】 ・調査書の評定以外を各高校の基準で30段階評価。
20	長野県	前期	後期
		【検査・選抜】 ・調査書、面接 ・学校によって、志願理由書又は自己PR文、作文又は小論文、実技検査	【面接】 実施しない。 【学校の特徴】 ・専門学科では2教科について傾斜配点可（2倍まで）。
21	岐阜県	第一次	
		【面接】 学科によって実施。 【学校の特徴】 ・専門領域における実技能力や部活動等の実績評価のための独自検査（面接、小論文、実技検査、自己表現）も可。 ・学力検査：調査書（評定）を、7：3～3：7から各学科で設定。	
22	静岡県	一般	
		【面接】 全員に実施。 【学校の特徴】 ・学校裁量枠、共通枠で選抜。 ・学校裁量枠は、調査書、学力検査、面接、学校独自選抜資料（作文、小論文、実技検査、その他）により、各高校の選抜方法で選抜。 ・共通枠のうち25%は、学力検査又は調査書（評定）・面接による3段階の選抜。	
23	愛知県	推薦	一般
		【出願要件】 ・中学校長の推薦 ・各高校で推薦基準を定めている ・体育学科は、運動分野で顕著な活躍をした者 【検査・選抜】 ・推薦書、調査書、面接 ・学校によって特別検査（芸術、スポーツ） ・選抜基準は次のア～エのいずれか ア 運動、文化、芸術等で優れた能力・適性及び実績 イ 恵まれない環境を克服し、他の模範 ウ 調査書の「学習の記録」が優秀 エ 専門学科では、将来の職業意志	※ 高校をAグループ、Bグループに分け、それぞれに出願可（最大2校に出願可）。 【面接】 全員に実施。 【学校の特徴】 ・受検者のうち一部は、学力検査：調査書を、4：6～6：4から各学科で設定。

24	三重県	前期	スポーツ特別枠	後期	
		【検査・選抜】 ・面接又は自己表現、作文又は小論文、学力検査(国又は数・英)から1つ以上	【出願要件】 ・各高校の「応募資格」を有する者 【検査・選抜】 ・前期の内容に加えて、実技検査等	【面接】 学科により実施。 【学校の特徴】 ・面接又は自己表現、作文又は小論文、実技検査の実施可。 ・選抜の最終段階で、各高校が示す「特に重視する選考資料等」を踏まえる。	
25	滋賀県	推薦	スポーツ・文化芸術推薦	特色	一般
		【出願要件】 ・中学校長の推薦 ・各高校が示す推薦要件にふさわしい者 【検査・選抜】 ・個人調査報告書、推薦書、面接、作文又は実技検査	※ 県の指定校のみで実施。 【出願要件】 ・中学校長の推薦 ・各高校の推薦要件を満たす者 【検査・選抜】 ・個人調査報告書、推薦書、実技検査 ・学校によって、面接、作文又は小論文、特色選抜の総合問題	【検査・選抜】 ・志願理由書、個人調査報告書、口頭試問、小論文、志願理由書、総合問題又は実技検査	【面接】 学科によって実施。 【学校の特徴】 ・学力検査を1教科減が可。 ・学力検査：個人調査報告書を、7：3～5：5から各学科で設定。
26	京都府	前期		中期	
		【検査・選抜】 ・報告書、学力検査(共通又は学校独自)、面接、作文又は小論文、活動実績報告書、実技検査		※ 2校まで志願可。 【面接】 学科により実施。 【学校の特徴】 ・第1志望から合格を決定する割合を設定可。	
27	大阪府	特別		一般	
		【検査・選抜】 ・調査書、学力検査、実技検査又は面接、自己申告書		【面接】 学科により実施。 ※ 面接を実施しない学科でも自己申告書を提出。 【学校の特徴】 ・国語、数学、英語の学力検査は、「基礎的」、「標準的」、「発展的」の3種類から選択。 ・学力検査：調査書(評定)を、7：3～1：9から各学科で設定。	

28	兵庫県	推薦	特色	一般
		<p>※ 普通科普通コースは実施しない。</p> <p>【出願要件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校長の推薦 <p>【検査・選抜】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査書、推薦書、面接、 ・学校によって、小論文（作文）、適性検査、実技検査 	<p>【検査・選抜】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査書、面接 ・学校によって、実技検査、小論文（作文） 	<ul style="list-style-type: none"> ・2校まで志願が可能。 <p>【面接】 学科により実施。</p> <p>【学校の特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合学科では音・美・保体・技家の実技検査1つを国・数・社・理・英の検査に代替可。
29	奈良県	特色		一般
		<p>【検査・選抜】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査書、学力検査（国・数・英） ・学校によって、学校独自検査、面接、実技検査 		<p>【面接】 学科によって実施。</p> <p>【学校の特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査書の評定の加重配点可。
30	和歌山県	スポーツ推薦		一般
		<p>【出願要件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校長の推薦 ・各高校の出願条件（競技と人数）を満たす者 <p>【検査・選抜】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推薦書、実技検査 		<p>【面接】 学科によって実施。</p> <p>【学校の特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力検査：調査書（評定）：面接は、各学科で設定。ただし、学力検査、調査書は各3割以上。
31	鳥取県	推薦		一般
		<p>【出願要件】 中学校長の推薦</p> <p>【検査・選抜】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦書、調査書、面接又は口頭試問 ・学校によって、作文又は小論文、実技検査 		<p>【面接】 全員に実施。</p> <p>【学校の特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力検査を2教科まで減が可。 ・作文、実技検査の実施可。 ・学力検査：調査書（評定）を、8：2～2：8から各学科で設定。
32	島根県	推薦	スポーツ特別	一般
		<p>【出願要件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校長の推薦 ・スポーツ、文化活動等で各高校が項目を示す <p>【検査・選抜】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人調査報告書、面接 ・学校によって、作文、実技検査等 	<p>※ 競技、学校は県が指定。</p> <p>【出願要件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校長の推薦 ・実績を有する者又は優れた資質や能力を有する者 <p>【検査・選抜】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接、書類選考 	<p>【面接】 学科により実施。</p> <p>【学校の特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接、実技検査の実施可。 ・学力検査：個人調査報告書を、6：4～2：8から各学科で設定。

33	岡山県	特別	一般
		<p>※ 普通科では実施しない。</p> <p>【検査・選抜】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査書、学力検査（国・数・英）、面接、選択実施の検査（口頭試問、小論文、作文、実技から1つ以上） ・学力検査の成績が一定以上ならば、あらかじめ示している実績の重視も可 	<p>【面接】全員に実施。</p> <p>【学校の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力検査の成績が一定以上ならば、調査書・面接重視の選抜も可。
34	広島県	選抜（Ⅰ）（推薦）	選抜（Ⅱ）（一般）
		<p>【出願要件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校長の推薦 ・各高校の推薦基準を満たす者 <p>【検査・選抜】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦書、志望理由書、調査書、面接 ・学校によって学力検査以外の独自検査 	<p>【面接】学科によって実施。</p> <p>【学校の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自校作成問題を学力検査に追加・代替可。 ・定員の2割までは学力検査重視（学力検査：調査書（評定）が7：3～9：1）又は調査書重視（学力検査：調査書（評定）が3：7～2：8）も可。
35	山口県	推薦	第一次
		<p>【出願要件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校長の推薦 ・各高校が定める推薦要件を満たす者 <p>【検査・選抜】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦書、調査書、志願理由書、面接（自己表現も可） ・学校によって、小論文、実技検査 	<p>【面接】全員に実施。</p> <p>【学校の特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小論文、実技検査、実技検査の実施可。 ・定員の一部で、学力検査が一定以上ならば調査書、面接、小論文、実技検査で選抜可。
36	徳島県	特色	一般
		<p>【検査・選抜】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査書、活動記録、学力検査 ・学校によって、作文、面接、実技等 	<p>【面接】全員に実施。</p>
37	香川県	自己推薦	一般
		<p>【検査・選抜】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査書、自己PR書、面接 ・学校によって、総合問題（国・数・英の思考力・表現力）、作文、適性検査 	<p>【面接】全員に実施。</p>

38	愛媛県	推薦		一般
		【出願要件】 ・中学校長の推薦 ・優れた実績・成果を有する者 【検査・選抜】 ・自己アピール書、報告書、作文又は小論文、面接又は集団討論		【面接】 全員に実施。 【学校の特色】 ・定員の3割は、学力検査：調査書（評定）：調査書の学習の記録以外・面接を、各学科で設定。
39	高知県	A日程		
		【面接】 全員に実施。 【学校の特色】 ・学力検査、調査書（評定）のそれぞれに傾斜配点可。		
40	福岡県	推薦	特色化	一般
		【出願要件】 ・中学校長の推薦 ・各高校が定める出願資格を満たす者 【検査・選抜】 ・志願理由書、推薦書、調査書、面接 ・学校によって、作文、実技試験	【出願要件】 ・各高校の出願資格を満たす者 【検査・選抜】 ・調査書、面接 ・学校によって、作文、実技試験	【面接】 学科によって実施。 【学校の特色】 ・「個性重視の特別試験」として面接、作文、実技も可。
41	佐賀県	特別		一般
		※ 県スポーツ、文化芸術指定校で実施。 【検査・選抜】 ・調査書、学力検査（国・数・英）、実技検査、実績評価、面接		【面接】 全員に実施。 【学校の特色】 ・数、英で追加問題可。 ・調査書の学習の記録以外も各校の基準で得点化。 ・学力検査：調査書（評定）を、5：5～7：3から各学科で設定。
42	長崎県	前期		後期
		特色	文化・スポーツ特別	
		【検査・選抜】 ・調査書、検査（基礎学力検査（国・数・英）、面接、プレゼンテーション、実技、作文、小論文から選択）	※ 県指定校で実施。 【出願要件】 ・優れた実績を有する者又は優れた資質や能力を有する者 【検査・選抜】 ・調査書、検査（基礎学力検査（国・数・英）、面接、実技、作文、小論文から選択）	【面接】 全員に実施。 【学校の特色】 ・学力検査で傾斜配点可。 ・学力検査：調査書（評定）：面接を各学科で設定。

43	熊本県	前期（特色）		後期（一般）
		【検査・選抜】 ・調査書、学校独自検査（面接、小論文、実技検査、実験、自己表現、小中学校での総合的な学習の時間の成果に関するもの）		【面接】 学科によって実施。 【学校の特色】 ・数学、英語で学校選択問題。
44	大分県	推薦		第一次
		【出願要件】 ・中学校長の推薦 ・スポーツ、文化等で成果を収めた者（詳細は各高校で定める） 【検査・選抜】 ・調査書、推薦書、面接 ・学校によって小論文		【面接】 学科によって実施。 【学校の特色】 ・学力検査：調査書を、5：5～3：7から各学科で設定。
45	宮崎県	推薦	スポーツ推薦	一般
		【出願要件】 ・中学校長の推薦 【検査・選抜】 ・調査書、推薦理由書、学力検査（2～3教科、傾斜配点も可）、面接、作文 ・学校によって適性検査	※ 県指定校で実施。 【出願要件】 ・中学校長の推薦 ・全国大会並みの実績を有する者中学校長の推薦 【検査・選抜】 ・推薦と同じ。	【面接】 全員に実施。 【学校の特色】 ・学力検査で傾斜配点可。
46	鹿児島県	推薦		一般
		【出願要件】 中学校長の推薦 【検査・選抜】 ・推薦書、調査書 ・学校によって面接等		【面接】 学科によって実施。 【学校の特色】 ・学力検査の傾斜配点可。
47	沖縄県	推薦		一般
		【出願要件】 ・中学校長の推薦 ・諸活動の実績を表現できる者（自己表現）又は文化芸術分野で表現できる者（個性表現） 【検査・選抜】 ・推薦入学志願書、調査書、推薦申請書、面接（自己表現、個性表現）		【面接】 全員に実施。 【学校の特色】 ・学力検査：調査書（評定）を、4：6～6：4から各学科で設定。

今後の予定

資料 3

1 県立高校入試改善検討委員会（第2回～第5回）

	日 時	場 所	内 容
第2回	令和3年12月16日（木） 14：00～16：00	岩手県民会館 第1会議室	・方向性や論点について 検討
第3回	令和4年1月31日（月） 14：00～16：00	岩手県民会館 第1会議室	
第4回	令和4年5月	（盛岡市内）	・総合的に検討 （提言案について検討）
第5回	令和4年8月	（盛岡市内）	・提言について検討

2 令和4～6年度の予定

年 度	月	内 容
令和4年度	9月	提言を県教育委員会に提出
	10～3月	県教委において新入試制度について検討（パブリックコメントの実施） 新入試制度について公表
令和5～6年度		周知期間
令和6年度	3月	新制度による入試実施（令和7年度入試）